

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2021年4月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：65,998人 / 高齢者人口：16,288人 / 高齢化率：24.59%

【圏域の特徴】

豊中市の北東部に位置し、吹田市にまたがる千里ニュータウンとして万博の頃が開発された校区と400年以上の歴史を持つ校区もある圏域となっている。再整備や土地区画整理事業、集合住宅の建て替えによる高層化住宅が整備されている。若年層の入居も増えており、人口は徐々に増加傾向。高齢化率は減少しているが、千里への愛着を持ち、住み続けたい住民は多く、高齢者数は増加している。緑も多く整備された景観で交通の便も良い。高齢になると坂道や階段が多いこと、建て替えによる景観や生活の変化、重装備なつくりが暮らしに支障をきたす要因となる場合がある。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・豊中市地域包括支援センター運営基本方針に沿って、事業計画を立て取り組みを行う。
- ・「地域包括ケアシステムの構築」を目指し、職員のスキルアップを図り、ネットワーク構築や住民主体の活動をサポートしていく。

【特に力を入れて活動している点】

「地域包括ケアシステムの構築」の実現に向けて

- 地域の見守り体制や支援体制を拡充していくために、関係機関に限らず企業や店舗等にも広く出向き、地域支援事業や協力体制について声をかけ、地域包括支援センターの窓口機能をお知らせし、点を増やしながら紡ぎ続けている。
- 認知症高齢者の支援体制の構築のため、認知症サポーター養成講座の実施、カフェの開設、継続支援を行う。認知症サポート医のみならず、地域の医療機関、関係機関、住民とも共同し必要な医療・介護・地域へつないでいく。
- 介護予防・セルフケアの取り組みの充実に向け、市・千里包括独自の介護予防手帳を用いた普及・啓発を行う。

コロナ禍でも活動の継続ができるよう、少人数でも対応、オンラインでも対応している。

【活動の中での課題やその解決策】

課題) 増加する高齢者に対応できる資源が不足してきている。

解決策) 介護予防で健康寿命促進、セルフケアの普及、地域力の向上が図られることで、自立支援の意識や生活に移行していく。

総評

【特徴的な取組内容】

- ① 圏域内独自の多職種間連携の場の構築により、幅広い医療関係者・介護関係者との連携が推進されています。そのことにより、事例検討等で多様な助言を得ることができています。
- ② 圏域版の自立支援型地域ケア個別会議を毎月開催されており、積極的な圏域内の主任ケアマネの参加があります。また、圏域の介護支援専門員と気軽に相談ができる関係づくりの推進を図るため、双方向の情報提供に努めています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① ACP (アドバンスド・ケア・プランニング、人生会議、人生の最終段階における医

療・ケアについて考える機会を持ち、本人が家族や医療・介護関係者等と繰り返し話し合う取り組み)を活用し、活動として拡充していくことで、地域包括支援センター本来業務の市民等へ啓発すべき権利擁護・医療介護に関する希望意思決定支援の実現に、また、自立支援を踏まえた、セルフケアや地域共生に繋がる啓発、意識向上に繋がられるかと思われます。